

リベルサス（ダイエット内服薬）に関する注意事項・同意書

リベルサスは、GLP-1 受容体作動薬の一種で減量に有効とされる「セマグルチド」を主成分とする経口投与タイプのお薬です。服用することで血糖値の上昇を抑え、糖尿病薬として使用されています。一方で、胃腸の動きを調整し食欲を抑制する効果があるため、リベルサスの服用によって自然に食欲が抑えられ、空腹感を感じにくくなります。

考えられる副作用

【低血糖】

低血糖症状で脈が速くなる、集中力の低下、場合によっては意識を失うこともあります。脱力感、倦怠感、高度の空腹感、冷や汗、顔が青白くなる、動悸、激しい震え、頭痛、めまい、吐き気、視覚異常などの症状が現れた場合はすみやかにブドウ糖または、ブドウ糖を含むものを摂取してください。

【胃腸の症状】

リベルサスには、胃腸の動きを抑制する事で消化をゆっくりにし、食欲を抑制する効果がありますが、吐き気やむかつき、下痢などの胃腸系症状が起こることがあります。その場合、お腹を圧迫させすぎないようにしてください。ベルトは緩め、コルセットなど腰に巻いているものは外してください。また、就寝時のうつ伏せはお腹を圧迫するため避け、横向きで ひざを曲げながら横になってください。また、食事に関しては消化に良いものを摂り、胃腸への負担を軽くするようにしてください。さらに、下痢は体内の水分が多く排出されるため、普段よりも多めに水を飲むようにしてください。

【その他】

稀に急性膵炎やアナフィラキシーショックなどを生じることがあります。万が一嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛、呼吸が苦しい等の症状が生じた際はすみやかに医療機関を受診してください。

服用時の注意

- ・服用後少なくとも 30 分は飲食、他薬の服用は避けてください。食事をした場合、薬の効果が薄れます。
- ・1 日 1 回 1 錠の服用を厳守してください。決して 1 度に 2 回分を飲まないでください。
- ・リベルサスは 1 日の最初の飲食の前に服用する必要があります。
- ・水 120cc(コップ半分) 以下で服用してください。
- ・多量の水、コーヒー、お茶、服薬ゼリーなどでの同時服用を控えてください。
- ・なるべく 1 日の中で同じ時間帯で服用するのが望ましいです。(多少の変動は可)
- ・錠剤は分割・粉碎及びかみ砕かず、そのままの状態での服用してください。
- ・湿気と光の影響を受けやすいため、服用直前に PTP シートから取り出すようにしてください。

【投与を忘れたとき】

飲み忘れに気づいた場合には、その日は飲まずに次の日に 1 回分飲んでください。

【女性の方へ】

妊娠中、授乳中または 2 か月以内に妊娠する予定の方の使用はおやめください。服用中に妊娠が判明した場合は必ず婦人科にご相談ください。

【使用されるお客様へ】

GLP-1 製剤は使用をやめた後にリバウンド（体重の再増加）が起きる可能性があります。ただしマンジャロに比べて効果がマイルドな分リバウンドの仕方やスピードには少し違いがございます。

海外の臨床試験（STEP1 延長試験）では、中止後1年で体重の約3分の2が戻った→つまりやめると半分以上リバウンドする可能性が高いという報告が上がっています。

リバウンドを防ぐ方法として、徐々に減薬する、食生活の改善、筋トレで基礎代謝を維持する等生活習慣を同時に見直すことを推奨しております。

【注意事項 / 禁忌事項】

以下に当てはまる方は処方できません。

膵炎などの膵臓疾患の既往、甲状腺疾患の既往、重度の胃腸障害（胃潰瘍、炎症性腸疾患など）のある方

本剤の成分に対してアレルギーの既往歴がある方

糖尿病の方（処方時点で糖尿病治療中及び糖尿病に相当する検査異常がある方）

同分類糖尿病薬との併用不可

（リベルサス・オゼンピック・ウゴービ・ゼップバウンド・サクセンダ・ビクトーザ・トルリシティ等）

SGLT2 阻害薬/アカルボース/メトホルミン以外の糖尿病薬と併用不可

糖尿病性ケトアドーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者様

甲状腺機能低下症のお薬を服用中の方

レボチロキシン製剤（チラージン）を服用中の方

腹部手術歴のある方はアルカボースとの併用不可

透析中の方

うつ病をはじめとする精神疾患をお持ちの方

自動車の運転、高所作業をされる方

BMI が 18.5 以下の方

※過度な減量は女性機能の低下（不妊の恐れ、生理不順等）が見られる可能性がございます。使用には充分ご注意ください。

18 歳未満、65 歳以上の方

摂食障害の既往・治療中の方

妊娠中・授乳中・または妊活中（可能性がある方）、2 か月以内に妊娠を予定する女性

低血糖を起こす可能性が高い以下の状態の方

- ・脳下垂体機能不全又は副腎機能不全
- ・栄養不良状態、飢餓状態、食事摂取量の不足、不規則な食事摂取
- ・過度のアルコール摂取者

上記に関して申告がない場合、虚偽の申告が発覚した場合、また何らかの合併症が起きた場合にも、当院では責任を負いかねます。

その他、当院医師の判断で診察時に主治医の許可を求める場合があります。

年 月 日